

「木曽森林管理署」
 七月十九日、長野県木曽町役場
 において、利用期を迎えた木曽地
 域のカラマツの生産拡大、流通体
 制の整備、地域内での高付加価値
 化を目指す「木曽カラマツ活用戦
 略会議」が開催され、木曽町長（木
 曽森林組合長兼務）、木祖村長、
 王滝村長、木曽官材市売協同組合、
 木曽木材工業協同組合、木曽地域
 振興局長及び当署署長など民国の
 関係者が出席しました。

この戦略会議は、民国連携によ
 る従来の「木曽谷流域森林整備推
 進協議会」をより実効性のあるも
 のとするため、①情報発信、②カ
 ラマツ活用、③ヒノキ活用を図る
 新規プロジェクトの一つとして位
 置づけられるものです。今年度は、
 木曽カラマツ戦略方針を策定し、
 関係者の合意形成・認識共有を図
 ることとしています。

今回の戦略会議では、五月に
 ノースジャパン素材流通協同組合



木曽カラマツ活用戦略会議の様子

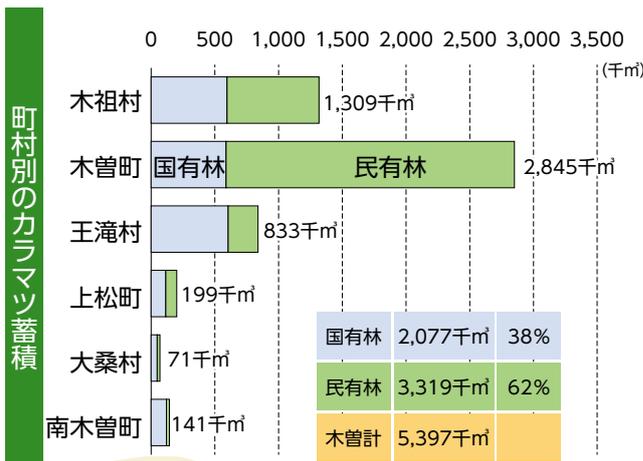
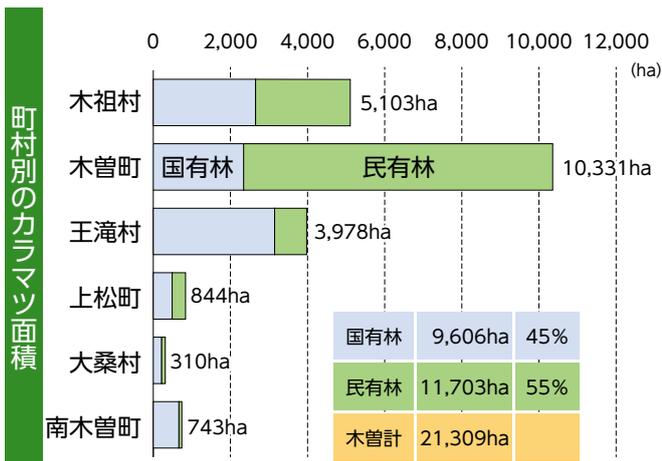
鈴木理事長を招いて行われた勉強
 会やカラマツ先進地の岩手県への
 視察結果を踏まえ「カラマツ材を
 普通に使用することへ認識を改め
 る」等、木曽カラマツへの期待を
 込めた前向きな意見が多く出され
 ました。

木曽谷流域の人工林はヒノキの
 次にカラマツの蓄積が多く、特に
 北部三町村（木曽町・木祖村・王
 滝村）を中心に、約二万^{ヘクタール}に約
 五四〇万立方^{メートル}の蓄積を有する優
 良なカラマツの産地でもあります
 （下図参照）。



民国連携事業の一環として活用している藪原土場に集積されたカラマツ

今後、戦略会議は四半期に一度
 のペースで開催し、①カラマツ材
 の生産拡大、②カラマツ材の安定
 供給（民国連携システム販売の推
 進、新たな中間土場の整備）、③
 地域内での高付加価値化（木曽町
 の木の産業づくり事業の支援な
 ど）を柱に、木曽のカラマツ活用
 の具体の戦略方針を検討してい
 くこととしています。





協定書へサインする関係者

七月二十五日、飛騨森林管理署は、名古屋林業土木協会の久々野高山・古川・神岡・荘川各支部及

【飛騨森林管理署】

災害の兆候をすばやく伝える
「国有林みま森たい」協定を締結

び名古屋造林素材生産事業協会と、山地災害の兆候等の情報伝達に関する協定「国有林見守り隊（みま森たい）協定」を締結しました。

集中豪雨や台風等により大きな災害が発生した場合には、「中部森林管理局における国有林防災ボランティア制度に関する協定」に基づいて情報収集等の協力をいただいています。今回の協定はこれを補完するためのものです。

当署が管轄する国有林の面積は、中部局管内で最も大きく（約十二万[㊦]）、奥地で発生した山地災害や、森林や河川の変化、林道の状況等を把握するためには、多くの時間と手間が必要となります。一方、近年、温暖化などの影響により、局地的な豪雨の発生が増加傾向にあり、これに伴い山地災害の増加が懸念されますが、前述したとおり、豪雨等による状況の変化をすべて迅速に把握することは困難となります。

このため、日頃より管内の国有林で森林整備や森林土木事業などを実施している事業者の皆さまから、森林や河川の異変など、災害



サインした協定書を手にする関係者（中央は飛騨森林管理署長）

の兆候などを把握した場合には、いち早く状況をお知らせいただけよう、事業者との意見交換を経て本協定を締結するに至りました。

今後とも関係事業者等の協力を得ながら、管内の国有林を管理し、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。

〈飛騨森林管理署の国有林は面積が大きいだけでなく、所在地も広く分散しています〉

飛騨森林管理署が管轄する国有林は約12万haと広大ですが、その所在地は飛騨署管内の2市1村（飛騨市、高山市、大野郡白川村）に広く分散しています。各地の地名などから付けられた国有林の名称は、林道などを除いて120以上あり、こちらも中部局管内で最も多くなっています。これらのうち、読み方の難しい国有林名をいくつか紹介します。

阿多粕	アタガス	蓼之俣谷	タデノマタタニ
大雨見	オオアマミ	丁子口	チョウジグチ
尾上郷	オガミゴウ	寺附	テラヅキ
折敷地	オシキジ	鈍引沢	ドンビキザワ
帰雲	カエリグモ	馬狩	マガリ
柏当	カシアテ	孫十郎尾	マゴジウロウ
上小鳥	カミオドリ	万波	マンナミ
切雲	キリモ	無数河	ムスゴウ
三方崩	サンボウクスレ	六廐川	ムマイガワ
千間樽	センゲンダル	森茂	モリモ

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第40回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その四 斧による伐採

長野県側の「木曾」と同様に、「裏木曾」においても木の伐採には主に斧（ヨキ）のみが用いられていました（大正時代初め頃まで）。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より
“伐採”（明治末頃の伐採のイメージ）

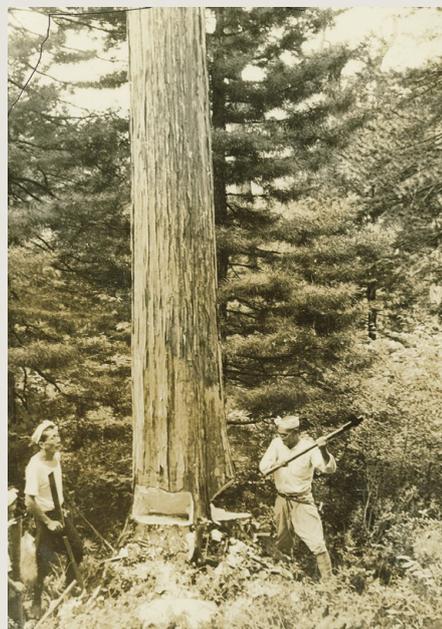
斧を用いた伐採は大きな音が出ますので、江戸時代に木曾・裏木曾地域を領していた尾張藩がわざと斧を使わせないという説もあります。しかし江戸時代頃の鋸の性能も決して良いものではありませんでしたので、斧での伐採が鋸よりも効率の悪いものであったというわけではありません。

特に太い木を伐る場合には三方向から斧で空洞を空けてから伐採する「三ツ緒伐り」（木曾

大正時代、裏木曾での神宮（伊勢）の式年遷宮関連行事で伐採される大樹（おそらく現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）。大正時代の「三ツ緒伐り」の様子を見ることが出来る。



昭和二十年代頃、現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林での斧による大材伐採の様子



では「三ツ紐伐り」と呼ばれる方法が取られました。この技法は「三ツ伐り」「台伐り」「鼎伐り」といった様々な呼称もあり、「三ツ緒伐り」の名も定着したのは比較的近年のことではないかという説もあります。

大正時代頃からは鋸も組み合わされるようになり、昭和三十年代にはチェーンソーが伐採の主役となっていきます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。





長良川と金華山国有林

【岐阜森林管理署

岐阜森林事務所】

地域統括森林官 奥田 学

岐阜森林事務所は、岐阜市の中心部に位置する金華山きんかさんのふもとの岐阜公園に隣接し、岐阜市、関市せき、美濃市みの、山県市やまがたに所在する国有林一、二四六いちにせうろくヶヶを管理しています。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

今回紹介する金華山国有林

(二九八ふたひゃくヶヶ)は、日本三大清流の一つであり鶴飼つがいで有名な長良川ながらと一体となった風景美を引き出す背景林の役割を果たしています。山頂には岐阜市のシンボルとなっている岐阜城がそびえ、アラカシ、ツブラジイなどの常緑広葉樹のほか、ヒノキ、マツ等の常緑針葉樹が混生し、豊かな自然景観が見られます。また、昆虫や野鳥も数多く見られ、自然観察や散策等に適しており、特に優れたレクリエーションの森であるとして「日本美しいの森お薦め国有林」に指定されています。ふもとから山頂まではロープウェイや遊歩道などが整備され、多くの市民や観光客に親しまれています。

この貴重な森林生態系などを保全するため、歩道などの巡視やマナーの啓発活動を積極的にを行っています。また、地元の学校が行う森林環境教育やボランティア等に



森林教室の様子

よる森林づくり活動の場としてフィールドを提供したり、こうした活動に参加するなどの協力も行っています。

このほか、金華山周辺でイノシシの目撃情報などが多く寄せられることから、岐阜大学や岐阜市などと「岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会」を設立し、地域と連携して森林パトロールや

登山者等への注意喚起、藪の刈払いなどにも取り組んでいます。

■未来の担い手へのメッセージ
私がこの職場に入ってから四十年近くになりますが、その頃に植えられた木を伐採するのはまだまだ先の話です。

森林は長い年月をかけて育てていくものであり、責任ある仕事です。国民の期待に応えられるよう、未来を担うみなさんに国有林の森林づくりを引き継いでほしいと願っています。



インターンシップの生徒とともに



シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「木曽路はすべて山の中、そこに長く息づく人々の暮らし、そして何より笑顔を大切にしたい」



一般社団法人木曽人 理事長 山田 弘

■自己紹介

弊社は、木曽の木材、観光、製造等各産業を支えてきた人々の生き様、笑顔を発信し、木曽地域を活性化することを目的とし、社名にも木曽の人々への思いを込めています。

■活動内容

フリーペーパーの発刊、FMラジオの検討、様々なイベントの仕掛けと運営、ネットによる情報発信など夢いっぱい大風呂敷を拡げて活動を開始し、今年で十年目

を迎えます。お陰様でフリーペーパー「木曽人」の地域での認知度も上がり、今年九月には四十号発行となります。

■もう一つ

の事業として、廃業したドライブインの営業施設のテラスからは、日本遺産、国定公園に指定されている「寢覚の床」を眺めることができ、全盛期には年間五十万人が訪れ、木曽観光の中心



ねざめ亭 (外観)



フリーペーパー 木曽人



テラスから望む「寢覚の床」

地、ハブとして地域の発展に貢献してきました。しかし、御嶽山の噴火、大型バスの相次ぐ事故、道の駅開業などの影響を受けて来訪者が激減し、更にオーナーが病に伏したため、十一年前に閉館しました。その当時、「日本一観光客の減った町」という不名誉な烙印を押されてしまい、このままでは町の、そして木曽の観光、産業の危機だと感じ、施設を「ねざめ亭」と命名して運営に乗り出しました。しかし一度減ったお客様の獲得は厳しく、今なお猛威を振るっているコロナにより、苦しい経営状況が続いています。

■メッセージ

現在もこれからも、官民一体となってこの観光施設を中心に活動・情報発信を続けながら、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林、御嶽山、木曽駒ヶ岳など近隣町村の観光スポットへの誘客、送客を担っていきます。

「木の国木曽」を町内外に、そして国内外に届くように、また、木曽がさらに活性化する一助になるよう発信し続けてまいります。

最後に、木曽では、二十年に一度の一大イベントとして、二〇二五年六月に上松町で「伊勢神宮御杣始祭」、木曽郡全体で盛り上げる「ご神木祭」が開催されます。併せて発信していきまので、どうぞ木曽へお越しください。

■連絡先

長野県木曽郡上松町
小川寢覚二四〇九
一般社団法人木曽人



豪雪地に生きるスギ天然林

かざくさき
風吹スギ遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

長野県小谷村おたりむらに原生状態で生育しており、我が国有数の豪雪地帯にまともって生育するスギ天然林は希少であることから、遺伝資源としてスギの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

小谷村の姫川へ流れ込む沢の上流部、南向き斜面に位置します。スギを主体とし、ブナ、カエデ等が混交する天然林が分布しています。

所在地
長野県北安曇郡小谷村



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

国有林モニターのご紹介



糸木 浩之
(長野県)

◇自PR

元々は東京都の出身ですが、縁あって二〇〇六年から十四年間沖縄県の石垣島に居住しておりました。

二〇二〇年からは、信州松本に居を移し現在に至っております。

西には北アルプス、東には美ヶ原高原を望み、美味しい「水」にも恵まれ幸せな生活を送っています。

◇国有林モニターに応募した理由

この美味しい「水」は松本平を取り囲む山々が生みの親ではないか？との素朴な疑問から、自然環境に興味を持ち始めました。

自然環境としての対象が「山」であり「樹木」となり、今回の国有林モニターへ応募した次第です。

◇国有林に期待すること

現在、長野県自然保護レンジャーとして自然公園などを巡回し、利用者に対し適切な利用や動植物の保護等のマナー啓発活動も行っています。

国有林については、個人的に「針葉樹が多い」「薄暗い」「有効活用されていない」「人の出入りがない」といったイメージを持っています。このイメージを少しでも払拭することができれば…と考えています。有効活用という点では、住宅用材や薪材、キノコ・山菜の採取などが思い浮かびます。また、散策コースなどを増やして森林浴などを楽しむ場が多くなればいいと感じています。モニター活動を通じて国有林について理解を深めたいと思います。

(写真…霧ヶ峰高原車山山頂にて)



デジタル森林紀行へ
ご来訪ください

デジタル森林紀行(デジ森)では、森林が織りなす美しい風景を、ご自宅でもご覧になれるよう紹介しています。風景の色をテーマに、写真を「青」「緑」「黄」「白」の四つに分類して掲載していますので、お気に入りの風景を見つけてお楽しみください。

デジ森はこちらから↓



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

暑い日が続きます。最高気温が35℃以上の日を指す「猛暑日」は、17年前の2007年から気象の用語として使われるようになったそうです。

気象庁の発表によると、日本の7月の平均気温は、統計を開始した1898年以降最高を記録し、過去30年間の平均値より2.16℃も高くなりました。単純に標高換算すると約350m高い地点の気温がこれまでの平均値に近いこととなります。なお平均値算出には、都市化による影響が比較的小さく、地域的に偏りなく分布するよう選定された全国15地点の観測値を用いています。このうち2地点は中部局管内にあり、富山県の伏木、長野県の飯田が選定されています。都市化の影響を受ける場所の平均気温はさらに高いことでしょう。みなさま、どうぞご自愛ください。

「とっていいのは写真だけ。持って帰るのはゴミと思い出。」どこかで聞いたり、言われた記憶はないでしょうか。今後も変わることはない大切な言葉だと思います。また、誰もがスマホで気軽にいつでもどこでも撮影できますが、その際には自分の足の位置にも気を配りたいものです。

New! 複合経営化支援保証のご案内

①造林・育林、②素材生産、③木材・木製品製造、④林業種苗生産、⑤薪炭生産、⑥きのこ生産、⑦木材卸売、⑧木材製品利用のうち、いずれかの事業を3期以上営んでいる方が当該事業とは異なる事業を新たに複合して経営する場合にご利用いただけます。

最大5年間保証料免除ができるため、複合経営をお考えの方の**負担を最小限に抑えることが可能**です。

素材生産業を営む方が造林・育林業と一体的に取り組みられるケースなどにもご利用いただけます。
※融資及び保証については一定の審査をさせていただきます。

ご利用対象者	上記①～⑧のいずれかを営む方		※諸条件がございますのでお問い合わせください。
保証限度額	最大6億円（他の保証分も含む）	保証期間	運転資金：7年以内 設備資金：15年以内
返済方法	一括返済／分割返済	保証料	免除（最大で5年間）
貸付利率	金融機関所定の利率	貸付方式	手形貸付／証書貸付
保証人・担保	ご利用条件により連帯保証人や担保が必要となる場合があります。		出資金 保証額に応じた出資金が必要です。（完済後、ご請求により払戻します。）
申込窓口	お近くの金融機関へ直接お申込みください。 取扱い金融機関： https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/jigyousya/default202306061010.html		
相談窓口	独立行政法人農林漁業信用基金 林業信用保証管理部／林業信用保証業務部 電話：03-3434-7825（地方公共団体又は事業者の方） ／03-3434-7826、7827（融資機関又は保証ご利用の方） URL： https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html		

お気軽にご相談ください。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。